

「リタイア世代」が「居場所のない定年後」（＝職業寿命が尽きてしまい、無為な人生を過ごす）／そして、その後の「望んだものと違う人生の終末」（＝健康寿命が尽きてしまい、認知症や寝たきりになるのを怯える日々を過ごす）という事態に陥っている。「この事態を現役世代は後追いしてはいけない！」と警鐘を鳴らした経産省のレポートが公表されたのは2017年5月のこと。——しかし、それ以降も、「リタイアした人達」が次から次へと、この“辛い事態”（＝Painful Situation）に陥っている

私達「現役世代」は、「この現実をどう捉えたらいいのだろうか？」——この「問い」は、私達一人ひとりだけでなく、日本国民全体の命運がかかる「重要な問い」である

“辛”に「線を一本」足すだけで『幸』になる、というのに……。なぜ、それができないのだろうか？——こういう格言がある。「辛と幸は紙一重である」（＝There's a very fine line between a Painfulness and a Happiness／直訳：辛と幸の間にはとても細かい線がある）

今日まで年齢を重ねてきて、もし、◆「何か大きな忘れ物をしたかもしれない」／◆「今まで何のために働いてきたのか」／◆「人生の意味という言葉がどうも気になって仕方がない」／◆「時々虚しさに押しつぶされそうになる」／◆「果たしてこのままでいいのだろうか」／◆「どこかに自分の本当の人生があるのでは」……と思ったら、その瞬間から「新たな学び」を始め、すぐにでも努力を始めることです

というのも、あなたがそう思うのは、●「より良く生きたい」／●「日々の生活にもっと意味を実感したい」／●「前向き的一步を踏み出したい」ことの「心の表れ」（＝Manifestations of the Heart）だから。年齢を重ねてからの「新たな学び」は若いときのそれよりも難しく忍耐を要しますが、ここで『気付いた者』と「そうでない者」の差は圧倒的に大きい。勇気を出して『始めた者』勝ちです

BST
コメント